

平成 29 年 11 月 23 日

白保リゾートホテル問題連絡協議会 御中
会長 新里 昌央 殿
渉外担当 柳田 裕行 殿

東京都新宿区西新宿 1-8-3
小田急電鉄株式会社
取締役社長 星野 晃司



公開質問状に関する回答書

前略 今般頂戴いたしました公開質問状に関し、弊社は改めて UDS 株式会社（以下「UDS」という。）に対し、（仮称）石垣島白保ホテルプロジェクト（以下「本開発計画」という。）への関与について聞き取り調査を実施いたしました。その結果判明いたしました事実等に基づき、下記のとおり回答申し上げます。 早々

記

1 本開発計画における UDS の関わり方について

UDS は、本開発計画に関し、平成 28 年 2 月頃より株式会社石垣島白保ホテル&リゾート様及び株式会社日建ハウジング様（以下「事業者」という。）と事業性及び実現可能性について検討を行ってまいりました。そのため、平成 28 年 8 月 23 日に開催された白保公民館での意見交換会、平成 29 年 4 月 12 日に開催されたしらほサング村での意見交換会に参加いたしました。

しかしながら、UDS としては本開発計画に対する地元住民の皆様の不安を勘案した結果、平成 29 年 4 月 12 日付けで事業者に対し、本開発計画の検討及び事業参画に関し、正式に撤退する旨を通達し了承を得ました。

2 質疑事項への回答について

<質疑 1 >

UDS 株式会社は、白保公民館における地元住民説明会において、公民館から事前に出席を要望されたにもかかわらず欠席し、そのため事業者は住民からの重要ないくつかの質問に答えられなかった。

<回答 1 >

前述の通り、UDS は本開発計画に対する地元住民の皆様の不安を勘案した結果、平成 29 年 4 月 12 日付けで本開発計画から撤退していたため、ご指摘の地元住民説明会に出席する立場にはありませんでした。このため、事業者等から当該説明会の案内や出席の要請もなく、その開催も認識しておりませんでした。

<質疑 2 >

石垣市自然環境保全条例における事前協議において、事業者から虚偽の申請が行われ、住民からの詳細な指摘（再質問）に対して回答を拒否。

<回答 2 >

前述の通り、UDS は本開発計画に対する地元住民の皆様の不安を勘案した結果、平成 29 年 4 月 12 日付けで本開発計画から撤退していたため、その後、事業者から石垣市に提出したとされる開発行為基本審査申請書等についてコメントする立場にありません。

<質疑 3 >

下水道が整備されていない地域で、周辺海域及び世界的財産であるアオサンゴ群集に悪影響を及ぼしかねない汚水排水計画。

<回答 3 >

上記<回答 2 >に同じ。

<質疑 4 >

海拔以下の土地にもかかわらず、汚水排水を地下浸透させる本開発計画が、周辺環境に及ぼす悪影響を懸念し、事業者の対応に不満を抱いている。

<回答 4 >

上記<回答 2 >に同じ。

3 小田急グループについて

小田急グループは、『お客さまの「かけがえのない時間（とき）」と「ゆたかな暮らし」の実現に貢献する』というグループ経営理念の下、UDS を含むグループ会社が、運輸、流通、不動産、ホテル、レストランなどさまざまな事業を展開しています。

この経営理念を実現し、さらなる事業成長を遂げるため「長期ビジョン 2020」を策定し、「2020 年度までに成長の種を蒔き育てる」というテーマの下、ホテル事業の拡大にも挑戦しております。

私たちは、こうした事業活動を通じて地域や社会とともに発展していくことが、小田急グループの社会的責任（CSR）であると認識し、「安全・安心の追求」「地域社会の変

化への対応」「環境に配慮した取り組みの推進」を重点分野と定め、さまざまな取り組みを進めています。

今後も小田急グループは、自らの社会的責任を着実に果たすことで、皆さまから信頼され、社会と共に発展する企業を目指してまいりますので、引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上